

令和 6 年度 中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】 心身ともに健康で、気力にあふれ、夢に向かって創造力とたくましい実践力を発揮し、新しい時代を拓く知性豊かな児童を育成する。

【子ども像】

○ 自ら考え、進んで学ぶ子	《 合言葉 》
○ 健康で、粘り強くやり遂げる子	【 考える 】
○ 心豊かで、思いやりのある子	【 やりぬく 】
	【 助け合う 】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- | | | |
|-------------|-------|-------------------------|
| ○ 「子ども」にとって | | わくわくしながら登校し、満足して下校できる学校 |
| ○ 「教職員」にとって | | 自分の力を十分に発揮できる、やりがいのある学校 |
| ○ 「保護者」にとって | | 安心して子どもを通わせられる学校 |
| ○ 「地域」にとって | | 信頼できる地域とともにある学校 |

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人権を尊重し、心豊かな子供を育成するために、多様な人々と協働する主体的な活動を取り入れ、よさを認め励まし、基本的な生活習慣の定着を図る心の教育の推進に努める。
- (2) 自ら学び、考え、表現する力を育成するために、基礎的・基本的な学習内容の定着と家庭学習の習慣化を図る。
- (3) 健やかでたくましく生きる子供を育成するために、体力の向上と望ましい食習慣の形成と命を守る安全教育の充実に努める。
- (4) 家庭・地域・関係機関との連携した社会に開かれた教育課程の実現に努め、郷土理解・郷土愛を育む地域の特性を生かした特色ある教育活動を推進する。
- (5) 教職員がいきいきとやりがいをもって勤務し、共働・協働の意識を高め、使命感と専門職としての自覚のもと、研修に励み、信頼される職場づくりに努めるとともに、教職員の働き方改革の視点に立ち、校務の効率化と勤務時間の適正化を図り、職場環境改善のための取組を推進する。

○(6) 旭地域学校園の教育ビジョンを目指し、地区内の小中学校の情報共有と共通実践を通して小中連携の一層の充実に努める。

【旭地域学校園教育ビジョン】

地域に愛される旭っ子の育成 ～地域との豊かなかかわりをめざして～

4 教育課程編成の方針

- (1) 国・県・市の基本方針、並びに児童の実態や地域の状況を考慮し、教育活動全般を通して特色ある教育を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付け、個性を生かし、変化に激しいこれからの社会を生きていくために必要な資質・能力である「生きる力」を培うためことを目指した教育課程の編成に努める。
- (2) 小学校学習指導要領の趣旨を十部に踏まえ、家庭や地域と連携を図り、それらの教育力を活用し広がりを持った教育活動が実践できるよう、社会に開かれた教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

○「大樹のごとく伸びる子」を育むために、学校の組織力を高め、学校・家庭・地域の連携・協働による特色ある教育活動を展開し、地域とともにある学校づくりを推進する。

(2) 学習指導

○主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成 ～ 自分の考えを広げ、深めることのできる授業づくり ～

(3) 児童生徒指導

○基本的な生活習慣を身に付け、思いやりのある児童の育成 ～ あいさつ・時間を守る・整理整頓 ～

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

○自ら判断し、進んで健康・安全な生活をしようとする児童の育成

～ 「自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動する児童」「自分の体に関心をもち、健康で安全な生活ができる児童」をめざして～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価															
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	① 授業の中で, 児童が「知りたい」「解決したい」と思えるような課題の設定や提示の仕方を工夫して, 知的好奇心を喚起し, 児童の学びに対する主体性を高めます。 ② 落ち着いて話を聞くことができる児童を育てるため, 学年に応じた「聞き方」の指導に努めます。 ③ 自信をもって自分の考えを伝えたり, 友達の前で発表したりできるように, 授業の中で, ペアやグループ, 全体活動など学習形態を工夫します。	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>100</td><td>81.2</td><td></td><td>90.9</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>94.4</td><td>87.5</td><td></td><td>88.6</td></tr> </tbody> </table> 教職員・保護者・児童のすべてで目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・授業の中で課題の設定や提示の仕方を工夫して, 知的好奇心を喚起し, 児童の学びに対する主体性を高める。自分の考えを伝えたり, 友達の前で発表したりできるように, 授業の中で, ペアやグループ, 全体活動など学習形態を工夫する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	81.2		90.9	R5	94.4	87.5		88.6
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	81.2		90.9															
R5	94.4	87.5		88.6															
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上, ⇒保護者・地域の肯定的回答90%以上	① 縦割り班活動など, 異学年の交流活動の充実を図り, 高学年児童が自信をもってリーダーシップをとり, 望ましい人間関係を構築できるよう支援します。 ② 児童が互いに認め合い, 自己肯定感を高められるよう, 「特別の教科: 道徳」の充実を図り, 学校生活の様々な場面で認め, 励ますなどの声掛けに努めます。	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>100</td><td>94.3</td><td>100</td><td>89.4</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>100</td><td>94.4</td><td>91.7</td><td>87.9</td></tr> </tbody> </table> 教職員・保護者・地域の肯定的回答は目標数値を上回ったが, 児童は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・ザウルスタイム等の縦割り活動を継続し, 充実させる。 ・高学年のリーダーシップを育成し, 全学年が互いに認め合える雰囲気を作る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	94.3	100	89.4	R5	100	94.4	91.7	87.9
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	94.3	100	89.4															
R5	100	94.4	91.7	87.9															

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85 %以上、 ⇒保護者の肯定的回答 8 0 %以上	① 様々な挑戦の機会を生かし、最後までやり遂げられるよう支援したり、称賛や承認の場面を設定したりすることで達成感や成就感を味わわせるようにします。活動後には積極的に家庭へ伝え、共通理解を図ることで、児童の意欲を高めます。 ② 「うつのみや元気っ子チャレンジ」やキャリアパスポートを活用し、目標に向かって実践できるよう支援に努めます。 ③ 学級や個人の目標を意識させ、一人一人が目標達成に向け実践継続できるよう支援に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>77.8</td><td></td><td>84.8</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.4</td><td>73.2</td><td></td><td>84.3</td></tr></table> 教職員の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者・児童は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・様々な挑戦の機会を生かし、最後までやり遂げられるよう支援したり、称賛や承認の場面を設定したりすることで達成感や成就感を味わわせるようにする。活動後には積極的に家庭へ伝え、共通理解を図ることで、児童の意欲を高める。 ・「うつのみや元気っ子チャレンジ」やキャリアパスポートを活用し、目標に向かって実践できるよう支援に努める。 ・学級や個人の目標を意識させ、一人一人が目標達成に向け実践継続できるよう支援に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	77.8		84.8	R5	94.4	73.2		84.3
	教職員	保護者		地域住民	児童														
R6	100	77.8		84.8															
R5	94.4	73.2		84.3															
1－(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 9 0 %以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答 8 5 %以上	① 様々な危険を想定した避難訓練を実施することを通して、「生活安全」・「交通安全」・「災害安全」に関する教育の充実に努めます。 ② 一人一台端末使用に関する安全ルールを示し、児童の危険回避に対する意識を高めていきます。 ③ 健康な体作りができるように、運動・食事・睡眠・手洗い・うがい・消毒などの健康的な生活習慣や病気・けがの予防法について指導していきます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>83.6</td><td>92.9</td><td>90.2</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>91.9</td><td>100</td><td>92.9</td></tr></table> 教職員・地域・児童の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・様々な危険を想定した避難訓練を実施することを通して、「生活安全」・「交通安全」・「災害安全」に関する教育の充実に努める。 ・定期的に、一人一台端末使用に関する安全ルールを確認することで、児童の危険回避に対する意識を高めていく。 ・健康な体作りができるように、保健だよりや食育だより、学級だよりを活用し、運動・食事・睡眠・手洗い・うがい・消毒などの健康的な生活習慣や病気・けがの予防法について指導していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	83.6	92.9	90.2	R5	100	91.9	100	92.9
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	83.6	92.9	90.2															
R5	100	91.9	100	92.9															

2- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり協力したりして、集団での課題を解決している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上	① よりよい生活が送れるよう、学級で課題解決に向けて話し合いを行い、係活動や当番活動などで進んで意見を発表したり、協力したりできるよう指導していきます。 ② 学校生活がよりよくなるよう、委員会活動などで、互いの意見を聞き合いながら協力できるよう指導していきます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td>86.4</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td></td><td></td><td>92.1</td></tr></table> 教職員・児童のすべてで目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・学級で課題解決に向けて話し合いを行い、係活動や当番活動などで進んで意見を発表したり、協力したりできるよう継続して指導する。 ・学校生活がよりよくなるよう、あらゆる場面において互いの意見を聞き合いながら協力して活動できるよう指導する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100			86.4	R5	100			92.1
		教職員		保護者	地域住民	児童													
R6	100			86.4															
R5	100			92.1															
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	① 児童生徒が、英語を使って自分の気持ちや考えなどを適切に伝えることができるよう、教員が自ら積極的に英語を使うとともに、ALTを活用した、英語によるやりとりを中心とした授業を推進します。 ② 英語のネイティブスピーカーであるALTを、授業はもとより休み時間や清掃時などあらゆる時間において活用し、児童が生きた英語に触れる機会の充実を図ります。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td>80.3</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td></td><td></td><td>77.9</td></tr></table> 教職員の肯定的回答は目標数値を上回ったが、児童は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・授業では、ALTと交流する活動を意図的に入れる。教員が自ら積極的に英語を使うとともに、英語によるやりとりを行う。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100			80.3	R5	100			77.9
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100			80.3															
R5	100			77.9															
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上	1 児童が、「宇都宮学」で学んだ歴史や伝統文化、産業などについて知り、地域学習や校外学習等をおして、郷土への愛情と誇りをもてるような学習を推進します。 2 「宇都宮学」で学習した内容を、授業参観・懇談会や、学校だより・学年だより等で児童や保護者に周知することに努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>79.7</td><td></td><td>86.4</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>68.5</td><td></td><td>80.7</td></tr></table> 教職員・児童の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き、「宇都宮学」で学習した内容を、授業参観・懇談会や、学校だより・学年だより等で児童や保護者に周知することに努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	79.7		86.4	R5	100	68.5		80.7
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	79.7		86.4															
R5	100	68.5		80.7															

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童（生 徒）は、デジタル機器や図書 等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 9 0 %以上、 ⇒保護者 8 0 %以上	① これからの社会に求められる情報 活用能力を育成するために「情報 モラル」や「デジタルシティズン シップ教育」等の充実を図りま す。 ② 児童がパソコンなどに親しみ、適 切 に活用する能力を育成するた めに、 調べ学習や学習のまとめ において、積極的にデジタル機器の活 用を図ります。 ③ 学習における図鑑などの書籍や新 聞等の活用を推進し、図書室の学 習センター・情報センターとし ての機能を充実させます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>83. 1</td><td></td><td>83. 3</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>86. 7</td><td></td><td>86. 4</td></tr></table> 教職員・保護者の肯定的回答は目標数値を 上回ったが、児童は目標数値に達しなかつ た。 【次年度の方針】 ・授業において、調べ学習や学習のまとめに おいて、積極的にデジタル機器の活用を図 る。図鑑などの書籍や新聞等の活用を推進 し、図書室の学習センター・情報センター としての機能を充実させる。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	83. 1		83. 3	R5	100	86. 7		86. 4
		教職員		保護者	地域住民	児童													
R6	100	83. 1		83. 3															
R5	100	86. 7		86. 4															
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な 社会」について、関心を もっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、 「持続可能な社会」につい て、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の 肯定的回答 8 5 %以上	① 国語・社会・理科・家庭科・総合 的な学習の時間・道徳科等におい て、環境問題やエネルギー問題、 防災等の「持続可能な社会」を見 据えた授業の充実を図ります。 ② 図書委員会や、給食環境委員会で SDG sに関するイベント等を実施す ることで児童への意欲付けを図り ます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>84. 2</td><td></td><td></td><td>85. 6</td></tr><tr><td>R5</td><td>94. 4</td><td></td><td></td><td>89. 3</td></tr></table> 児童の肯定的回答は目標数値を上回った が、教職員は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・国語・社会・理科・家庭科・総合的な学習 の時間・道徳科等において、環境問題やエ ネルギー問題、防災等の「持続可能な社 会」を見据えた授業の充実を図る。 ・図書委員会や、給食環境委員会で SDG sに 関するイベント等を実施することで児童へ の意欲付けを図るとともに、その後、振り 返しをすることで、さらに理解が深まるよ う努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	84. 2			85. 6	R5	94. 4			89. 3
	教職員	保護者		地域住民	児童														
R6	84. 2			85. 6															
R5	94. 4			89. 3															
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員 は、特別な支援を必要とする 児童や外国人児童等の実態に 応じて、適切な支援をしてい る。」 ⇒教職員の 肯定的回答 9 0 %以上	① 日常の観察や相談活動のほか教育 相談週間やQ-U検査など、多くの視 点から児童理解に努めます。 ② 通常の学級で特別な支援を必要と する児童の様々な教育的ニーズに 対応するため、かがやきルームや 特別支援学級、通級指導教室の効 果的活用を図るとともに、少人数 指導や TT など個に応じた指導・支 援に努めます。 (定期的・臨時的な教育支援委員会設 置)	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答は、100%だった。 【次年度の方針】 ・引き続き、日常の観察や相談活動のほか教 育相談週間やQ-U検査など、多くの視点か ら児童理解に努める。 ・通常の学級で特別な支援を必要とする児童 の様々な教育的ニーズに対応するため、か がやきルームや特別支援学級、通級指導教 室の効果的活用を図るとともに、少人数指 導や TT など個に応じた指導・支援に継続 して努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100				R5	100			
	教職員	保護者		地域住民	児童														
R6	100																		
R5	100																		

3- (2)
いじめ・不登校対策の
充実

A11 教職員は、いじめが許
されない行為であることを
を指導している。
【数値指標】
全体アンケートの「学校は、
いじめ対策に熱心に取り組ん
でいる。」
⇒児童・教職員の
肯定的回答90%以上、
⇒保護者・地域の
肯定的回答80%以上

① 児童についての日常の情報交換や
観察、教育相談、アンケート調査
等を通して、児童の実態把握、い
じめの早期発見・早期解決に努め
るとともに、ネットコミュニケー
ションのマナーやルールの大切さ
と危険性について、懇談会等の機
会を利用して児童・保護者への啓
発をします。
② 教科や道徳、学級活動の時間に、
「いじめ」は絶対に許されないとい
うことを、継続指導していきます。
③ 「いじめゼロ強調月間」を設定
し、児童会でポスター作成や集会
を行ったり、児童が作った標語を
教室に掲示したりして、意識付け
を図り、取り組みの様子を家庭に
周知します。

A12 教職員は、不登校を生
まない学級経営を行って
いる。
【数値指標】
全体アンケートの「教職員
は、不登校を生まないよう、
一人一人の児童を大切に、
児童がともに認め励まし合う
学級経営を行っている。」
⇒児童・教職員・保護者の
肯定的回答85%以上

① 教職員が教育相談や日々の学校生
活内での児童との対話を心がけ、
児童の些細な変化を見逃さないよ
うに学校全体で取り組みます。
② 帰りの会等を利用して児童のがん
ばりを学級内で共有したり、励ま
し合ったりすることで温かい雰
囲気の学級を作ることができ
るようにします。
③ 一人一台端末を活用し、教員が不
登校傾向にある児童とクラスの友
達とをつなぐ機会をもつことで所
属意識や自己肯定感を高めるよ
うにし、心の安定を図ります。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域住民	児童
R6	100	82.5	100	96.2
R5	100	82.0	91.7	95.0

教職員・保護者・地域・児童のすべてで目
標数値を上回った。
【次年度の方針】

- ・児童についての日常の情報交換や観察、教
育相談、アンケート調査等を通して、児童
の実態把握、いじめの早期発見・早期解決
に努めるとともに、ネットコミュニケーシ
ョンのマナーやルールの大切さと危険性につ
いて、懇談会等の機会を利用して児童・
保護者への啓発に努める。
- ・教科や道徳、学級活動の時間に、「いじ
め」は絶対に許されないということを、継
続して指導していく。
- ・ポスター作成や標語作成の際に、家庭で一
緒に「いじめ」について考える機会を設け
る。

【達成状況】

	教職員	保護者	地域住民	児童
R6	100	84.4		95.5
R5	100	91.3		94.3

教職員・児童の肯定的回答は目標数値を上
回ったが、保護者は目標数値に達しなかつ
た。
【次年度の方針】

- ・教職員が教育相談や日々の学校生活内での
児童との対話を心がけ、児童の些細な変化
を見逃さないように学校全体で取り組む。
- ・帰りの会等を利用して児童のがんばりを学
級内で共有したり、学級活動等で、一つの
目標に向かって励まし合ったりすることで
温かい雰囲気のある学級を作ることができ
るよう努めるとともに、学級だよりで学級の
良さを発信していく。
- ・一人一台端末等を活用し、教員が不登校傾
向にある児童とクラスの友達とをつなぐ機
会を増やすことで所属意識や自己肯定感を
高めるようにし、心の安定を図る。

3－(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員 は、児童の悩みに寄り添い、 相談に乗ったり、問題の解決 に努めたりして、児童が明る くいきいきと学校生活を送れ るようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地 域の肯定的回答90%以上	① 児童一人一人の話をよく聞き、声 を掛け、よいところを認めて伸ば す指導に努めます。 ② 児童会活動や縦割り班活動の充 実、学校行事の工夫・改善を通し て、児童が主体的に活動する場を 多く設定することで、楽しく活気 あふれ、児童にとって「居がい」 のある学級・学校を目指します。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>85.5</td><td>100</td><td>92.4</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>85.5</td><td>100</td><td>92.1</td></tr></table> 教職員・地域・児童の肯定的回答は目標数 値を上回ったが、保護者は目標数値に達しな かった。 【次年度の方針】 ・児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、 よいところを認めて伸ばす指導に努めると ともに、学校全体に児童の良さを伝えてい く。 ・児童会活動や縦割り班活動の充実、学校行 事の工夫・改善を通して、児童が主体的に 活動する場を多く設定することで、楽しく 活気あふれ、児童にとって「居がい」のあ る学級・学校を目指す。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	85.5	100	92.4	R5	100	85.5	100	92.1
	教職員	保護者		地域住民	児童														
R6	100	85.5	100	92.4															
R5	100	85.5	100	92.1															
4－(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員 は、分かりやすい授業や一人 一人へのきめ細かな指導をし ている。」 ⇒児童・教職員・保護者の 肯定的回答85%以上	① 授業の「ねらい」を明確にし、ね らいや目標を達成させるための 「手だて」を工夫し、児童が主体 的に学びに取り組めるように、指 導・支援方法の改善に努めます。 ② 確かな学力を育成するため、少人 数指導、習熟度別学習、T・T、 かがやきルームでの指導など、個 に応じた指導の更なる充実に努め ます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>80.6</td><td></td><td>97.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>81.7</td><td></td><td>95.7</td></tr></table> 教職員・児童の肯定的回答は目標数値を上 回ったが、保護者は目標数値に達しなかつ た。 【次年度の方針】 ・少人数指導、習熟度別学習、T・T、か がやきルームでの指導など、個に応じた 指導の充実をさせる。一人一授業や要請 訪問の様子をHPに掲載し、保護者に周 知する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	80.6		97.0	R5	100	81.7		95.7
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	80.6		97.0															
R5	100	81.7		95.7															
4－(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 全体アンケートの「学校に関 わる職員全員がチームとな り、協力して業務に取り組ん でいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85% 以上	① 様々な職員の専門性を生かし、効 果的・効率的に授業や業務が行わ れるよう連携します。 ② 学校行事や校内研修ばかりでな く、日頃から全教職員が一丸とな って、児童指導を充実させます。 ・児童についての情報共有 ・質の高い指導法の学び合い	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答は、100%だった。 【次年度の方針】 ・良好な職場環境を整えたうえで、様々な職 員の専門性を生かし、効果的・効率的な業 務推進に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100				R5	100			
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100																		
R5	100																		

4-(3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答85%以上	1 働き方を見直すことで、時間を確保し一人一人の児童と向き合い、適切な指導・支援に努めます。 2 多様な専門性を有する学校スタッフが共同して教材を作成したり、既存資料を利活用したりすることで、児童の実態に合わせた指導の充実に努めます。 3 業務内容を精選することで、放課後の時間を確保し、教材研究や児童指導の充実に努めます。	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>R5</td><td>88.9</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> 教職員の肯定的回答は、100%だった。 【次年度の方針】 ・今後も、業務の効率化を図るために働き方を見直したり、業務内容を精選したりする。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100				R5	88.9			
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100																		
R5	88.9																		
5-(1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、児童生徒や教職員の交流、小中一貫カリキュラムの作成・見直しなど、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒教職員・5・6年児童の肯定的回答85%以上 ⇒保護者・地域の肯定的回答80%以上	1 乗り入れ授業やあいさつ運動、宮っ子チャレンジへの協力など、中学校と連携した教育活動の推進を目指します。 2 9年間を見通した年間指導計画の実践や授業力向上のための小中一貫研修等により、学力向上の推進を図ります。 ③ 小中一貫教育に関する取組内容を、学校だよりや学年だより等で周知することに努めます。	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>100</td><td>71.9</td><td>92.9</td><td>90.9</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>100</td><td>74.6</td><td>91.7</td><td>96.0</td></tr> </tbody> </table> 教職員・地域・児童の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・引き続き、小中一貫教育に関する取組内容を、学校だよりや学年だより等で周知することに努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	71.9	92.9	90.9	R5	100	74.6	91.7	96.0
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	71.9	92.9	90.9															
R5	100	74.6	91.7	96.0															
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒教職員・児童・保護者・地域の肯定的回答85%以上	1 学校支援ボランティアやコミュニティセンター、オリオン通り商店会、企業などと連携し、学校と保護者、地域等が一体となった教育活動を推進し、児童が多くの人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させます。 2 PTA運営委員会や地域協議会で学校の取組を説明し、学校の現状や課題について理解していただき、今後の学校運営が向上していくよう、地域・保護者と連携・協力して学校教育活動の充実に努めます。	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th><th>児童</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6</td><td>100</td><td>87.5</td><td>100</td><td>87.1</td></tr> <tr> <td>R5</td><td>100</td><td>86.1</td><td>83.3</td><td>87.9</td></tr> </tbody> </table> 教職員・保護者・地域・児童のすべてで目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・家庭、地域・企業等と連携・協力した教育活動を推進していく。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	87.5	100	87.1	R5	100	86.1	83.3	87.9
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	87.5	100	87.1															
R5	100	86.1	83.3	87.9															

6－(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A 19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケートの「 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 」 ⇒教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	① 定期的な安全点検を実施し、迅速な修繕・補修による適切な学習環境の整備に努めます。 ② 保護者や学校支援ボランティアと連携を図り、壁面や廊下等を活用して児童の作品を掲示するなど、学習や活動の意欲を高める温かな環境づくりを推進します。 ③ 校内施設の担当者や使用者は、普段から物品管理、整理整頓を行い、安全で安心できる環境づくりに努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>85.1</td><td>100</td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>82.6</td><td>100</td><td></td></tr></table> 教職員・保護者・地域のすべてで目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・定期的な安全点検を実施し、迅速な修繕・補修による適切な学習環境の整備に努める。 ・保護者や学校支援ボランティアと連携を図り、壁面や廊下等を活用して児童の作品を掲示するなど、学習や活動の意欲を高める温かな環境づくりを推進する。 ・校内施設の担当者や使用者は、普段から物品管理、整理整頓を行い、安全で安心できる環境づくりに努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	85.1	100		R5	100	82.6	100	
		教職員		保護者	地域住民	児童													
R6	100	85.1	100																
R5	100	82.6	100																
6－(2) 学校のデジタル化推進	A 20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 全体アンケートの「 私は、授業（授業準備も含む）や業務の改善に、デジタルを積極的に活用している。 」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内研修会をととして、指導力の向上や活用についての共通理解を図ります。 ② 学校ホームページやさくら連絡網を有効活用し、学校情報の提供をデジタル化し、業務改善を目指します。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 教職員の肯定的回答は、100%だった。 【次年度の方針】 ・校内研修会をととして、指導力の向上や活用についての共通理解を図る。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100				R5	100			
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100																		
R5	100																		
小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 90%以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 80%以上	① 教職員が率先して明るいあいさつの実践、声掛けに努めます。 ② 小中あいさつ運動や児童会のあいさつ運動を実施し、学校内・外でのあいさつの習慣化を図ります。 ③ 道徳、学級活動、日々の指導を通して、あいさつの種類や時と場に応じたあいさつについて指導していきます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>94.7</td><td>75.0</td><td>85.7</td><td>91.7</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>82.2</td><td>100</td><td>91.4</td></tr></table> 教職員・地域・児童の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者は目標数値に達しなかった 【次年度の方針】 ・継続して、教職員が率先して明るいあいさつの実践、声掛けに努める。 ・挨拶ができた児童を称賛する。 ・挨拶の習慣が図れるよう、挨拶ポイントを集めるなど、学校行事に合わせて実施する。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	94.7	75.0	85.7	91.7	R5	100	82.2	100	91.4
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	94.7	75.0	85.7	91.7															
R5	100	82.2	100	91.4															

	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 8 0 % 以上、 ⇒保護者・地域の肯定的回答 8 5 % 以上	① あいさつ・時間を守る・整理整頓に焦点を当てた指導を行い、基本的生活習慣を身に付けることができるよう指導します。 ② 安全な登下校のきまりやマナーについて、それぞれの担当場所の問題点を学校全体で情報共有し、児童への指導に当たります。 ③ 月ごとの行事や気候に合わせた生活目標を設定し、帰りの会等で児童自身が振り返りを行い、望ましい生活習慣の定着を図ります。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>85.7</td><td>100</td><td>90.2</td></tr><tr><td>R5</td><td>100</td><td>87.7</td><td>100</td><td>90.0</td></tr></table> 教職員・保護者・地域・児童のすべてで目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・「ザウルスキッズの5つの約束」の指導を徹底して行い、教職員も含め、学校全体で守れるようにしていく。 ・継続して、安全な登下校のきまりやマナーについて、それぞれの担当場所の問題点を学校全体で情報共有し、児童への指導に当たる。 ・引き続き、月ごとの行事や気候に合わせた生活目標を設定し、帰りの会等で児童自身が振り返りを行うことで、望ましい生活習慣の確立に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	85.7	100	90.2	R5	100	87.7	100	90.0
	教職員	保護者		地域住民	児童														
R6	100	85.7		100	90.2														
R5	100	87.7	100	90.0															
	B 3 家庭学習の習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 8 0 % 以上 ⇒教職員の肯定的回答 9 0 % 以上	① 「家庭学習マイプラン」により家庭と連携しながら、宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習強化週間」などを設定したりして、家庭学習の習慣化を目指します。 ② 学年の発達段階に合わせた自主学習の内容・量について指導し、継続して取り組めるようにするとともに、手本となる児童のノートを称賛し、全児童に発信するなど、児童の意欲喚起に努めます。	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>63.0</td><td></td><td>79.5</td></tr><tr><td>R5</td><td>88.9</td><td>60.0</td><td></td><td>69.3</td></tr></table> 教職員の肯定的回答は目標数値を上回ったが、保護者・児童は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・「家庭学習マイプラン」により家庭と連携しながら、宿題の出し方を工夫、家庭学習の習慣化を目指す。学年の発達段階に合わせた自主学習の内容・量について指導し、継続して取り組めるようにするとともに、手本となる児童のノートを称賛し、全児童に発信するなど、児童の意欲喚起に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	63.0		79.5	R5	88.9	60.0		69.3	
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	63.0		79.5															
R5	88.9	60.0		69.3															
	B 4 児童は、読書習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、読書活動に進んで取り組んでいる」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 8 0 % 以上 ⇒保護者の肯定的回答 7 0 % 以上	① 朝の読書の時間や、学校支援ボランティアによる読み聞かせ、「家読」の奨励等、本に親しむ機会を設定することで、児童の読書に対する興味関心を高めます。 ② チャレンジブックの実施、読書週間でのイベント等を通して、豊かな感性を育む読書活動の推進に努めます。	B	【達成状況】 <table><tr><td></td><td>教職員</td><td>保護者</td><td>地域住民</td><td>児童</td></tr><tr><td>R6</td><td>100</td><td>71.2</td><td></td><td>67.4</td></tr><tr><td>R5</td><td>94.4</td><td>58.1</td><td></td><td>72.1</td></tr></table> 教職員・保護者の肯定的回答は目標数値を上回ったが、児童は目標数値に達しなかった。 【次年度の方針】 ・学校支援ボランティアによる読み聞かせ、「家読」の奨励等、本に親しむ機会を設定することで、児童の読書に対する興味関心を高める。チャレンジブックの実施、読書週間でのイベント等を通して、豊かな感性を育む読書活動の推進に努める。		教職員	保護者	地域住民	児童	R6	100	71.2		67.4	R5	94.4	58.1		72.1
	教職員	保護者	地域住民	児童															
R6	100	71.2		67.4															
R5	94.4	58.1		72.1															

B5 「自分・友だち・中央地区」みんな大好き夢いっぱい事業を掲げ、「学び」・「やさしさ」・「生きる力」の育成を図る。 【数値指標】 全体アンケートの「『考える』『やりぬく』『たすけあう』ザウルスキッズとして縦割り班活動や地域の行事などに一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	1 本校のマスコットである「ザウルス」を活用し、「考える」「やりぬく」「たすけあう」のあいことばを意識させた各種活動の充実に努めます。 ・縦割り共遊 ・ザウルスランキング	B
---	---	---

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 <<学校運営>> 学校の組織力を高め、特色ある教育活動の展開

特色ある教育活動を実践するにあたり、地域の教育力を考慮しながら全職員の共通理解のもと、協力して業務に取り組んできた。その結果、「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」や「児童は、『考える』『やりぬく』『助け合う』ザウルスキッズとして、縦割り班や学校行事に進んで参加し、意欲的に活動している」で、児童・教職員・保護者・地域住民のすべての対象で目標数値を上回ることができた。今年度は、3年生の社会科で栃木県警察本部を見学したり、5・6年生の総合的な学習では宇都宮地方裁判所で「宮っ子『夢』教室」を実施したりするなど、新たな地域の学習素材を開拓することができた。PDCA サイクルを活用しそれらの実践を検証して、次年度につなげていきたい。しかし、まだまだ中央地区には活用していない地域素材があるので、今後も学習指導要領の趣旨を踏まえて、特色ある教育活動を推進していきたい。

2 <<学習指導>> 主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成

児童の学びに対する主体性を高めるため、児童が「やってみたい」「知りたい」という思いや「やらなければ」という必要感をもてるような課題設定や学習活動を展開するとともに、対話的な学び合いの場の工夫などで、考えを広げたり深めたりすることができる児童の育成を目指してきた。本校独自の目標項目である「児童は、家庭学習や自主学習に進んで取り組んでいる」については、肯定的回答率が目標数値に届かなかったが、児童の数値は昨年度より10.2ポイント増加した。また「児童は、読書習慣を身に付けている」についても、児童は肯定的回答率が目標数値に届かなかったが、保護者は昨年度よりも13.1ポイント上昇した。学校の取組の成果が出てきている結果と言える。引き続き、保護者との連携をさらに図りながら、読書を含んだ家庭での学習習慣を定着させるための工夫改善を行いたい。また、教職員の研修を積極的に進めて授業力の向上を図り、一人一人に応じたきめ細やかな指導で、児童が主体的に取り組み、共に学び合う授業を展開していきたい。

3 <<児童指導>> 基本的な生活習慣を身に付け、思いやりのある児童の育成

明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。アンケートの「思いやり」に関する項目では、児童のみが肯定的回答で目標値を下回ったが、昨年度よりも1.5ポイント上昇した。引き続き、互いを認め合ったり言動に気をつけさせたりする児童指導や学級経営を推進していく。あいさつについては、教職員・保護者・地域住民が昨年度の数値を下回った。学校が家庭や地域と連携して、「いつでもどこでもだれとでも」あいさつができる児童を育成していきたい。また、不登校に対する取組については、保護者の肯定的回答が昨年度より6.9ポイント減少し目標値を下回った。不登校を未然に防ぐために、児童一人一人に寄り添った児童指導を心掛けていきたい。

今後もうまくなるようになったことやよい変容が見られたことを称賛していくことで、自己肯定感や意欲を高め、「児童一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきいきとした雰囲気」の学校づくりに努めていきたい。

4 <<健康・体力・安全>> 自ら判断し、進んで健康で安全な生活をしようとする児童の育成

本校児童は明るく元気に生活している。ここまでインフルエンザ等による学級閉鎖は出ていない。アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」については、保護者の肯定的回答が昨年度より8.3ポイント減少し、目標数値を下回った。避難訓練だけでなく、学校のすべての教育活動をとらえて「生活安全・交通安全・災害安全」の充実を図り、児童の危機意識の高揚を図っていききたい。体力に関しては、全国や県の平均を下回っている種目が多く、課題は多いが、反復横跳びはほぼすべての学年で全校平均を上回っており、少しずつではあるが教科体育や体育的行事の成果が出て

きている。今後も、児童の体力の現状を見極め、体力の向上や運動量の保持・増進に向けた取組の工夫を図っていききたい。

7 学校関係者評価

【健康や安全に気を付けた生活について】

- ・ 登下校中、寒くても手袋をせずにポケットに手を入れて歩いている児童が多く、危険性を感じる。
- ・ 小学生に限らず高校生まで、自転車の左側通行の徹底を図りたい。
- ・ コロナが5類になりマスクの制限がなくなったことで、保護者からは「風邪をうつし合っている」という声をよく耳にする。
- ・ 子ども食堂などでは、児童のスマホ使用が増えているが、モラルの指導はしっかり行っていきたい。

【時と場に応じたあいさつについて】

- ・ 朝の読み聞かせの時、自分から進んであいさつをする児童は少なくなってきた。
- ・ 学校だけでなく、子供会等地域の行事においても、あいさつの指導を行っていく。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校の自己評価や保護者、児童、地域協議会委員の皆様方から寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。特に重点とすることは以下のとおりである。

【学校運営】

- ・ 引き続き地域や保護者との連携を大切にし、学校の取組や児童の頑張りを積極的に発信し、児童の健やかな成長に向けて、互いの役割を担っていけるようにしていく。
- ・ 地域の教育力を生かした教育活動の充実や地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【学習指導】

- ・ 児童の「やってみたい」「知りたい」という知的好奇心を喚起し、児童が主体的に学習に取り組む授業を展開するために、教職員の研修を充実させたり、授業準備のための時間を確保したりする。
- ・ 家庭学習の習慣を定着させるために、保護者に協力を依頼したり課題の出し方等を工夫したりし、自主学習の仕方や取組内容についての具体的な支援を行う。
- ・ チャレンジブックの実施や図書室のイベント等をとおして、児童の読書への関心意欲を高める。

【児童指導】

- ・ 自分のよさや成長を実感できるような児童指導を充実させ、一人一人の自己肯定感を高められるようにする。
- ・ 教育相談を充実させ、教職員が日々の学校生活内での児童との対話を心がけ、児童の些細な変化を見逃さないようにすることで、「いじめ」「不登校」の未然防止に努める。

○ 中学校と連携し、あいさつ運動を展開するとともに、児童が主体的にあいさつできるような児童会活動の活性化を図る。また校内だけでなく、家庭・地域と連携し、あいさつの励行を推進していく。

【健康体力】

- ・ 児童の体力の現状を把握し、落ち込んでいる領域を補強する運動を取り入れたり、意図的に運動をする場面を設定したりして、体力や運動能力の向上を図る。
- ・ 動画の作成や公開、また校内の掲示物を充実させることで、健康に対する意識をさらに高めていく。さらに、児童の環境・給食委員会の活動を活発にし、学校給食を通して、食に関する指導の充実を図る。
- ・ 「生活安全・交通安全・災害安全」の指導を充実させ、児童の危機意識を高める。また、様々な危険を予測し自らの命を守りぬく行動力を育成する。